

## 今日の説教のポイント<マタイによる福音書 20 章 29～34 節>

9 章 27 節以下のよく似た出来事と比べたときに見えて来るものは？

### ①求められた憐れみよりさらに深い憐みで応えられたイエス様

イエス様に希望を託し、群衆に黙れと叱られても、なお、「主よ、ダビデの子よ（メシアを示す）、私たちが憐れんで下さい」（30, 31）と叫び続けた二人の盲人。この記事は、主はその信仰に応えられたのだ、ということを示しています。ここで盲人（30, 31）とイエス様（34）の両方に出て来る「憐れむ」は原文では異なり、イエス様の憐みの方は内臓と関係した、より深い憐れみを示す原語です。私たち全ての者のことを憐れみ、救うために今から十字架に向かわれるイエス様。その方を「神様からの救い主だ」と確信して救いを求め続けた二人。主はこの彼らに応えられたのです。私たちの主への信頼も、この二人のようでありたいと思います。

### ②二人の盲人の願いと、ゼベダイの息子たちの母の願いとの違い

イエス様はこの二人の盲人に「何をしてほしいのか」（32）と尋ねられました。先週の箇所でも、ゼベダイの息子たちの母にも全く同じように尋ねられました（21）。私たちは、両者がイエス様に願った内容の違いに驚きを感じざるを得ません。自分の子どもを高い地位に就けてくれという願いと、目が見えるようにしてほしいという願いの違いです。イエス様は聞くべき願いは聞かれる方、そうでない願いは聞かれないのだということを思われます。願いについては、自分の思いばかりでなく、神様の目から見たらそれはどうなのかということも考える者になりたいものです。「願ったのに聞かれない時は、聞かれなくてもいい願いなのだ」、主を信頼してそう思えばいいのです。

### ③祈りが聞かれたら感謝するだけでなく、その主に従って行くこと！

9 章では、イエス様は癒された者に黙っておくように命じられました。しかし、ここではそのままイエス様に従うことを良しとされています。いよいよ十字架にかかるためにエルサレムに入られる直前だったからです。盲人たちはそのことは知りませんでした。このお方抜きにこれからの人生を歩むことは考えられず、従ったのです。そしてそれは正しかったのです。イエス様は願って聞いてもらえたらそれで終わりのお方ではありません。このお方こそ、私たちが従って行くべきお方なのです。